慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	海南小記の序文の一節
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1925
Jtitle	史学 Vol.4, No.3 (1925. 8) ,p.16(328)- 16(328)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19250800-0016

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

日本では誰知らぬ者も無いチェンバレン教授である。如何にした心持からかジュネヴに來て、人に忘れられつゝ靜かに老いんとして居る。家はルッソオ舊居の近くに在つて番地までも自分は知つて居た。先生はラフカディオ・ハアンよりもたしか三つ四つ若かつたからまだ七十には大分間がある筈だ。ひどく眼が惡くて、其の眼は腦から來て居ると云ふことであつた。强ひて面會を求める手紙を出した者もあつたが、病氣に障るからと云ふ代筆の斷りが來たさうだ。秋の初のまだ暖かい頃までは、それでもジャルダン・アングレェの樹蔭水の滸を看護人に伴はれて逍遙して居られるのを見かけたと云ふ人も幾人かあつた。そんなら自分もよそながら一度はと思つて、折々靜かな午後などに往つて見たこともあつたが、終に目的を達せずして冬になつてしまつた。（中略）

日本と此の學者との因緣は並々でなかつた。日本に生れて一生を勉强したものにもチェンバレン氏だけの蒐集と述作とを遺し得た者は多くなかつた。我々が今頃少しづつ必要を唱へて居る土俗誌の研究に彼は遠國から來て三十年前に手を著けた。アイヌ民族の言語に就ても大なる感謝は彼に屬する。殊に琉球に至つては、母方の祖父（船長ベシル・ホールの曾て訪ひ寄つて、なつかしい見聞錄を世に留めた島である。……（海南小記の序文の一節）